

○宮古島市のさやいんげんは、JAインゲン専門部会を中心に生産されているが、定時・定量・定品質のさやいんげんの生産出荷のためには、わい性品種の節間伸長処理による長期収穫栽培での技術格差や、新規就農者の確保・育成が課題であった。

○農業改良普及課では、平成29年度から関係機関と連携し、実証ほの設置や技術支援を強化するとともに、新規就農者の育成支援に取り組んだ。

○この結果、わい性品種の出荷割合の増加、新規就農者の育成等が図られ、産地力の強化に繋がった。

具体的な成果

1 産地リーダーの育成

- 指導農業士等の育成  
さやいんげん栽培農家のリーダー育成  
指導農業士2名・女性農業士1名が新規に認定された

- 県内の品評会で品質の高さや産地活動が評価

- ① 野菜品評会  
農林水産大臣賞1人  
金賞・銅賞 3人

- ② 野菜産地活動表彰  
1回(H31)



2 新規就農支援

- 栽培講習会や現地検討会等による栽培技術の向上

- 関係機関と連携した農家研修等支援体制の確立

- 新規就農者の育成確保  
5名増加



普及指導員の活動

- 新規就農志向者や新規栽培農家等を重点対象に、円滑な就農・技術向上に向けて総合的に支援

- 就農ステップアップ講座（講習会、現地検討会）を開催し、就農定着に向けて支援

- 県関係機関・JAとの連携により、栽培講習会・現地検討会の内容を充実

- 土壌分析結果に基づく施肥指導を実施

- わい性品種の節間伸長処理栽培や施設内高温対策、品種等の実証展示ほを設置し、栽培技術の向上及び長期収穫を目指して指導

- 野菜産地協議会やJA専門部会と連携し、産地活動を強化



普及指導員だからできたこと

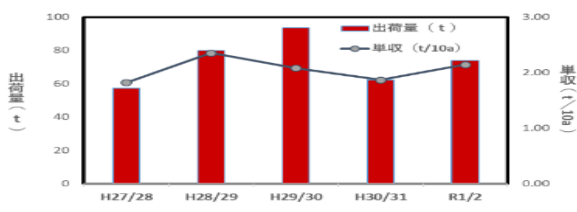
- 研究機関やJA等との情報共有を図ることにより、地域としての課題を整理し、方向性を一つにして連携した栽培技術指導に繋げることができた。

- 日頃から連携している指導農業士等や市町村、関係機関の関係者を結びつけ、新規就農者を育成するための支援体制を構築することができた。

3 さやいんげん生産状況

- 単収の向上  
H27/28年 1.82t → R1/2年 2.14t

- わい性品種出荷割合の増加  
H28/29年 31% → R1/2年 43%



# 新規就農者及び新規栽培者に対する支援 ～宮古島市さやいんげん産地育成の一環として～

活動期間：平成29年度～令和2年度

## 1. 取組の背景

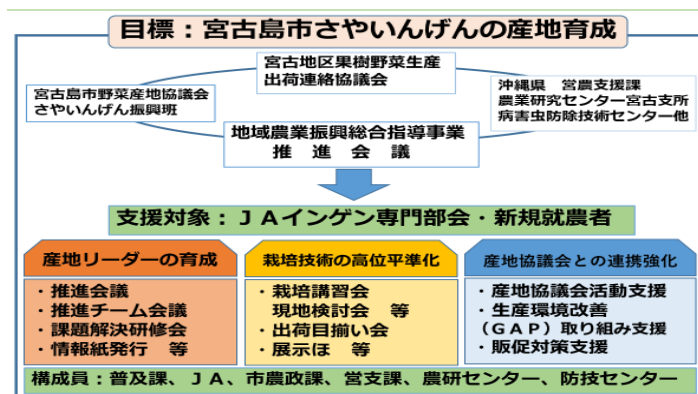
宮古島市のさやいんげんは、JA インゲン専門部会を中心に生産されており、H26年には計画的に栽培面積を拡大し、県の拠点産地を目指すことを関係機関で確認した。定時・定量・定品質のさやいんげんの生産出荷のためには、おい性品種の節間伸長処理による長期どり栽培での技術格差や、新規就農者の確保・育成が課題であった。そこで、農業改良普及課では特に、産地リーダーの育成、新規就農者及び新規栽培農家の栽培技術の高位平準化に取り組むこととした。

## 2. 活動内容（詳細）

産地リーダーの育成では、これまで産地を牽引してきた農家代表と関係機関との意見交換を通して、担い手育成等についての課題整理や取組方向について共通認識をもち、課題解決研修会や情報誌発行を通して、意識醸成を図った。栽培技術の高位平準化については、関係機関と連携して、新規就農者等を対象にした栽培講習会や現地検討会の開催、実証展示ほの設置等を活用した技術普及に取り組んだ。

### （1）課題解決に向けた体制整備

課題解決を円滑に進めるため、普及課、市農政課、JA、営農支援課、農業研究センター宮古支所、病虫害防除技術センター宮古駐在で構成する推進チーム会議を設置し、定期的に活動の進捗確認や意見交換を行った。



### （2）産地リーダーの育成

#### ア 推進会議・課題解決研修会の開催

課題解決に向けた取り組み方針の検討を行うための推進委員として、市、JA、研究機関および農家代表（JA インゲン専門部会役員や農業士等）を選定し、意見交換・情報共有の場として推進会議を開催

した。また、活動計画や進捗状況の確認をするため、課内チーム会議や関係機関を含めた推進チーム会議を設置した。産地リーダーの育成に繋げるため、特に新規栽培農家や女性農業者を含めた農家代表を中心に、出荷市場視察や販売環境に関する意見交換会、県内外先進地研修を実施した。

年度	名称	内容
H29～R1 共通	推進チーム会議（4回/年）	生産代表農家及び関係機関との意見交換、情報共有、課題の整理、取り組み内容確認、事業実績報告
	推進会議（2回/年）	
	野菜産地協議会振興班会議	
H29年度	課題解決検討会（10/19）	市場情勢報告会
	さやいんげん研修会（12/4）	効果的な病害虫防除について
	課題解決検討会（12/8～9）	先進産地視察研修（本島南部）
H30年度	課題解決検討会（7/3）	市場との意見交換会
	課題解決検討会（11/22～24）	市場視察研修（東京2市場）
R1年度	課題解決検討会（5/14～16）	先進産地視察研修（千葉県君津市）
	課題解決検討会（9/13）	GAPおよび新葉黄化症について

#### イ 新規就農者の確保

さやいんげんを主品目として就農希望する志望者を対象に、指導農業士等の下での長期農家研修への誘導や事業等を活用した施設整備等について重点的に支援した。

### （3）栽培技術の高位平準化

#### ア 講習会、現地検討会の実施

宮古島市のさやいんげん生産は、積極的な施設整備等により、増産した一方、特に新規就農者及び新規栽培農家の技術の底上げが課題であったため、関係機関と連携して栽培講習会や現地検討会を開催し、基本的な栽培技術の普及定着を図った。

#### イ 実証展示ほの設置

栽培技術の向上を目的に、新規就農者や新規栽培農家を対象に、わい性品種の節間伸長処理による長期収穫栽培の実証や関西向け品種（キセラ）の栽培実証展示ほを設置した。

わい性品種の節間伸長処理では、施設を締め切り、高湿度を維持する必要があるが、葉焼け等の高温障害が生じることがある。また、収穫期に高温に遭遇すると、落花・落莢や不稔果の発生や収穫者の体力的な負担が増大するため、高温対策としての遮光・遮熱ネットの選定（遮光率や取扱性）および換気手法の検討を行った。



わい性栽培実証ほ



遮光資材の選定実証ほ

## 3. 具体的な成果（詳細）

### （1）産地リーダー育成

### ア 新たなリーダーの育成

産地協議会や推進会議において、農家代表との意見交換を行い、産地育成に向けた取り組み方針について共通認識を持つことが出来た。また、H29年以降、県野菜品評会では農林水産大臣賞を含む複数の受賞者が出たことや3名が指導農業士・女性農業士に認定され、産地リーダー育成にも繋がった。

### イ 若手生産者の育成

さやいんげんを主品目とする新規就農者を重点的に支援した結果、H29～R2年度で5名（就農予定含む）が就農・定着し、産地を支える若手生産者の育成が進んでいる。



派遣研修の様子

## (2) 栽培技術の高位平準化

### ア 講習会、現地検討会および目揃い会の実施

定期的に栽培講習会や現地検討会を実施し、時期ごとの栽培管理の注意点や新規登録農薬等の情報発信を行った。また、宮古島産さやいんげんは出荷規格が徹底されていることが市場から評価されている。そのため、目揃い会ではしなび対策や出荷規格の再確認を行い、規格の厳守を呼びかけた。



栽培講習会（左）、出荷目揃い会（中）・現地検討会（右）

### イ わい性品種の節間伸長処理栽培の普及

専門部会への栽培指導による技術定着を図ったことで、宮古島産さやいんげんの出荷量に対するわい性品種の出荷割合は増加（H28/29:31%⇒R1/2:43%）しており、産地の主力品種となった。

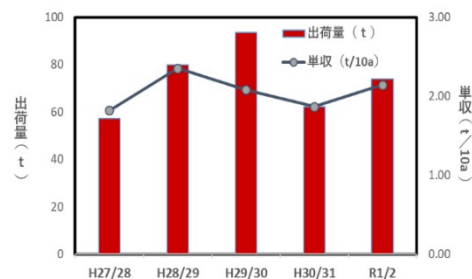


研究センター実証試験ほ

### ウ さやいんげんの生産状況

出荷量はH27/28年産作では57.3tだったが、H29/30年産作で93.6tと過去最高を記録した。その後、高齢の生産者の引退や規模縮小に伴い、R1/2年産作では74tとなっている。

単収については、H27/28年産期の1.82tからR1/2年産作は2.14tとなった。



出荷量・単収の推移

#### 4. 農家等からの評価・コメント

(JA 営農指導員 A氏)

わい性品種の節間伸長処理栽培や施設内高温対策等について、実証展示ほ設置や講習会・現地検討会を通して技術の普及を図ることができ、さやいんげんの生産振興に繋がった。

関係機関と農家の連携強化を図ったことにより、新規就農者や新規栽培農家の確保及び技術向上に繋がった。今後もその連携を活かして新規就農者支援、農家への技術支援を行ってほしい。

(指導農業士 B氏)

宮古島市は、農家、行政、普及機関、研究機関、JA 等の連携が取れている方だと思う。新期就農者への技術指導やアドバイス等についても、引き続き協力していきたい。今後も、さやいんげんの生産振興に努め、産地全体としてレベルアップしていきたい。

#### 5. 普及指導員のコメント

(農業改良普及課 普及指導員)

日頃から連携している農業士、市町村、JA、研究機関等の関係者と新期就農者を結びつけ、就農定着に向けた支援体制を構築することができた。

特に、さやいんげんを主品目としている新規就農者に対し、栽培技術の向上を図るため、実証展示ほ設置、栽培講習会、現地検討会を重点的に実施するとともに、JA さやいんげん専門部会の講習会等にも積極的に参加を促したことが成果につながった。

#### 6. 現状・今後の展開等

今後も引き続き、関係機関との連携を強化して、技術力向上と経営安定を図り、さやいんげん産地の育成・強化に努める。

また、新規就農者については、指導農業士等の協力を得ながら、就農定着に向けて支援を継続する。